# 令和６年度第１回史跡めぐり

# 「恵林寺・甲府城・武田神社・甲斐善光寺」

令和６年６月６日（木）実施

## 1.　「恵林寺」

旧区役所横から総勢３１名で山梨県甲州市の恵林寺を目指して午前8時00分に出発。環7通りから甲州街道を経由し永福から首都高へ、中央高速を競馬場とビール工場の間を通り最近テレビで何回も取り上げられている上野原のあたりのラブレター作品を眺め順調に走行し、談合坂ＳＡで休憩を取り、最初の見学地恵林寺に。10時30分に到着。
恵林寺では甲州市観光ボランティアのガイドの方に説明していただきました。恵林寺は臨済宗妙心寺派の名刹で元徳２年（１３３０）に、甲斐牧ノ庄（かいまきのしょう）の地頭職（じとうしょく：領主）をつとめていた二階堂出羽守貞藤（にかいどうでわのかみさだふじ：道号は道蘊　どううん）が、夢窓国師を招き、自邸を禅院とし創建し、その後武田信玄の尊敬を受けた美濃の快川（かいせん）和尚の入山で寺勢を高め、永禄７年（１５６４）には、信玄自ら寺領を寄進し当山を菩提寺と定めました。黒門から赤門迄現在は舗装されていますが、昔は砂地で流鏑馬が行われていたそうです。

## ２．昼食「小作のほうとう」

昼食は甲州名物ほうとうです。甲府駅北口のほうとうでは有名店の小作へ甲府城の駐車場から歩いて向かいました。

暑いときに汗を流しながら熱いものを食べることになってしまいました。大きめのカボチャが入ったほうとうで量も多く満腹になりました。

## ３．　甲府城

食事後は歩いて甲府城へ、ここでは「甲府城御案内仕隊」の皆様の説明を受けました。古くは甲斐府中城、一条小山城、舞鶴城、赤甲城などとも呼ばれていました。秀吉の命令により甥の羽柴秀勝、腹心の部下である加藤光泰らによって築城が始められ、浅野長政・幸長父子によって完成をみました。関ヶ原の戦後に、甲斐は再び家康の支配下となり、慶長 12（1607）年には幕府の直轄地となりました。

江戸時代の初めは、将軍家一門が城主となる特別な城でしたが、寛文元（1661）年に徳川家光の四男の徳川綱重と、その子綱豊（後の 6 代将軍家宣）が甲府藩・甲府家をたてました。その頃城の大規模な修復がおこなわれています。宝永元（1704）年、5 代将軍徳川綱吉の側用人である、柳沢吉保とその子柳沢吉里が甲府藩主となり、柳沢家が大和郡山に転封されるまでの約 20 年間続きました。

平成 2 年からは公園整備事業が着手され、発掘調査や整備がおこなわれ、平成 31 年には、その価値が認められ、国指定史跡となりました。

ガイドさんがおすすめの場所は、天守閣のあった天守台に大きな石があります通称「鏡石」と呼ばれているところでした。

また、ここの石垣はこの場所で出た石を使用して作っているとのことでした。

石を割ったものが使用されているのでわかるようです。

## ４．武田神社

武田神社は武田信玄公を御祭神として祀られ、父君信虎公が永正16年（1519年）に石和より移した躑躅ヶ崎館跡に鎮座致しております。この館には信虎・信玄・勝頼の三代が 60 年余りにわたって居住し、昭和13年には国の史跡として指定されました。

館跡には当時からの堀、石垣、古井戸等が残り、信玄公を始め一族の遺香を現在まで伝えると共に、神社創建の折、県内各所より寄進を受けた数百種類の樹木が四季折々の風景を見せます。

また、境内にある「三葉の松」は全国でも珍しく、黄金色（こがねいろ）になって落葉することから、身につけると「金運」のご利益があるといわれております。

## ５．甲斐善光寺

当山は、開基武田信玄公が、川中島の合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ、永禄元年（1558）、御本尊善光寺如来像をはじめ、諸仏寺宝類を奉遷したことに始まります。板垣の郷は、善光寺建立の大檀那本田善光公葬送の地と伝えられ、善光寺如来因縁の故地に、開山大本願鏡空上人以下、一山ことごとくお迎えいたしました。その後、武田氏滅亡により、御本尊は織田・徳川・豊臣氏を転々といたしましたが、慶長三年（1598）信濃に帰座なさいました。甲府では新たに、前立仏を御本尊と定め、現在に至っております。

金堂中陣天井には、江戸の希斎という画家によって、巨大な龍が二匹描かれております。

この部分のみは、吊り天井となっており、手をたたくと多重反響現象による共鳴が起こります。

これをいわゆる「鳴き龍」と呼びますが、当山の鳴き龍は日本一の規模を持ち、参拝者に親しまれております。

境内鐘楼堂の銅鐘（県指定文化財）は、信州から引きずって運んだ「引き摺りの鐘」として知られ、現在でも時を告げております。